帯状疱疹ワクチン任意予防接種費用一部助成のご案内

足立区

【接種前に必ずお読みください】

帯状疱疹の発症と帯状疱疹後神経痛（PHN）を予防するとともに、予防接種費用の経済的負担を軽減するため、帯状疱疹ワクチン任意予防接種費用の一部を助成します。同封の予診票を持参して、足立区内指定医療機関で接種を受け、接種費用と区助成額の差額を医療機関にお支払いください。

定期予防接種、任意予防接種を問わず助成を受けられる機会は、**生涯で１度限り**です。

――対象となる方

・　５０歳以上の区民の方

※　過去に接種したことがない方または全額自費で接種した方が対象です。

※　過去に接種したことがない方には、無料で接種できる定期予防接種があります。令和７年度の対象年齢の方（令和７年度に６５、７０、７５、８０、８５、９０、９５、１００歳になる方または１００歳以上の方）は、任意予防接種費用一部助成の対象外です。

――接種期限

・　令和８年３月３１日まで

――助成額と助成回数

・　接種費用のうち、ワクチンの種類によって以下の金額を区が負担します。接種費用は医療機関により異なります。

【生ワクチン（ビケン)】　　５，０００円　１回

【不活化ワクチン（シングリックス）】　１０，０００円　２回まで

――実施場所

【区内指定医療機関】

・　事前予約が必要です。

・　区内指定医療機関以外で接種する場合は、助成を受けられません。

・　医療機関ごとに接種費用や取り扱うワクチンが異なりますので、事前にご確認ください。

――持参するもの

・　足立区民であることがわかる物（健康保険証、運転免許証等）

・　帯状疱疹ワクチン任意予防接種予診票

・　接種費用と助成額との差額（接種費用は医療機関へお問い合わせください）

――注意事項

・　不活化ワクチンは、２か月間隔で２回接種します。２回目の接種日が２か月を超えた場合は、遅くとも１回目の接種日から６か月後までに接種してください。

・　申請時から接種するときまでに希望するワクチンの種類が変わった場合には、予診票を再度発行いたします。必ず事前に保健予防課へお問い合わせください。

・　一方のワクチンを１回接種したあとは、もう一方のワクチンに切り替えることはできません。

・　助成を受けられるのは、生または不活化ワクチンのいずれかを、生涯で１度のみとなります。

――帯状疱疹の予防接種（生ワクチン、不活化ワクチン）を希望される方へ

１　帯状疱疹の症状について

帯状疱疹は、過去に水痘にかかった時に体の中に潜伏した水痘帯状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経支配領域に沿って、典型的には体の左右どちらかに帯状に、時に痛みを伴う水疱が出現する病気です。合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る「帯状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすこともあります。帯状疱疹は、70 歳代で発症する方が最も多くなっています。

２　接種に当たっての注意事項

予防接種の実施においては、体調の良い日に行うことが原則です。健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医等に相談の上、接種するか否かを決めてください。また、以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。

①　明らかに発熱（通常 37.5℃以上をいいます）がある場合

②　重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合

③　受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合

④　明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する場合及び免疫抑制をきたす治療を受けている場合

⑤　その他、医師が不適当な状態と判断した場合

	生ワクチン（乾燥弱毒生水痘ワクチン）	不活化ワクチン（組換えワクチン）
その他 接種ができない方	○化学療法やステロイドなど免疫を抑える治療をしている方 ○免疫力が落ちている方（HIV 感染等） ○妊娠していることが明らかな方 ○カナマイシン、エリスロマイシンの抗生剤にアレルギー反応を起こしたことがある方	上記①～⑤に該当しなければ、 免疫の状態等に関わらず接種が可能です。
接種に注意が 必要な方	輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後３か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後６か月以上置いて接種してください。	筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方は注意が必要です。

※　また、心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方、予防接種を受けて 2 日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった方、けいれんを起こしたことがある方、免疫不全と診断されている方や、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方、帯状疱疹ワクチン（生ワクチン、不活化ワクチン）の成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方等はいずれのワクチンについても接種に注意が必要です。

【女性への注意事項】
　妊娠している人又はその可能性がある人は、生ワクチン予防接種不適当者として接種することができません。出産後又は妊娠していないことが確認された後、適当な時期に接種を受けてください。接種に当たっては、接種を受ける医師へご相談ください。
　なお、接種後２か月間は、妊娠を避けることが必要です。

3　ワクチンの効果

	生ワクチン（乾燥弱毒生水痘ワクチン）	不活化ワクチン（組換えワクチン）
接種後１年時点	６割程度の予防効果	９割以上の予防効果
接種後５年時点	４割程度の予防効果	９割程度の予防効果
接種後１０年時点	－	７割程度の予防効果

※　合併症の一つである、帯状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後３年時点で、生ワクチンは６割程度、不活化ワクチンは９割以上と報告されています。

4　ワクチンの安全性
　ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、生ワクチンについては、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎が、不活化ワクチンについては、ショック、アナフィラキシーがみられることがあります。
　接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

主な副反応の 発現割合	生ワクチン（乾燥弱毒生水痘ワクチン）	不活化ワクチン（組換えワクチン）
70%以上	―	注射部位の疼痛
30%以上	注射部位の発赤	注射部位の発赤、筋肉痛、疲労
10%以上	注射部位のそう痒感・熱感・腫脹・疼痛・硬結	注射部位の腫れ、胃腸症状、悪寒、発熱
1%以上	発疹、倦怠感	痒み、倦怠感、全身疼痛

5　接種後の注意
① 予防接種を受けた後３０分間は急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
② 注射した部分は清潔に保ってください。接種当日の入浴に特別な問題はありませんが、注射した部位はこすらないようにしてください。また、接種当日の激しい運動や多量の飲酒は控えてください。

6　他のワクチンとの同時接種・接種間隔
　いずれの帯状疱疹ワクチンについても、医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザワクチンや新型コロナワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチン等の他のワクチンと同時接種が可能です。
　ただし、生ワクチンについては、他の生ワクチンと 27 日以上の間隔を置いて接種してください。

7　予防接種による健康被害救済制度について
　任意の予防接種によって健康被害が発生した場合、独立行政法人医薬品医療機器総合機構による「医薬品副作用被害救済制度」の適用となることがあります。

◆ 問い合わせ先 ◆

お問い合わせコールあだち　３８８０－００３９
午前８時～午後８時まで（１月１日～３日を除く毎日）

足立区 保健予防課 予防接種係 TEL３８８０-５０９４